【日本医科大学付属病院　がん化学療法レジメン】

≪無断転載禁止≫

レジメン番号： SCLC-119

対象疾患	レジメン名称	コース期間	総コース数	適応	催吐リスク	根拠
小細胞肺がん	Durvalumab + CBDCA/ETP	21日間	4+αコース	■ 進行/再発 □ 術後補助化学療法 □ 術前補助化学療法 □ 放射線併用化学療法 □ その他	高	N Engl J Med 379: 2220-9, 2018

	薬品名	投与量	投与経路	投与時間	Day 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
①	生理食塩液	50mL	点滴静注	5分	↓																				
②	イミフィンジ 生理食塩液	1500mg/body 100mL	点滴静注	60分	↓																				
③	生理食塩液	50mL	点滴静注	5分	↓																				
④	デキサート パロノセトロン アロカリス 生理食塩液	6.6mg 0.75mg 235mg 50mL	点滴静注	30分	↓																				
	デキサート 生理食塩液	6.6mg 50mL	点滴静注	15分		↓	↓																		
⑤	エトポシド 5%ブドウ糖液	100mg/㎡ 500mL	点滴静注	60分	↓	↓	↓																		
⑥	カルボプラチン 5%ブドウ糖液	AUC 5 250mL	点滴静注	60分	↓																				
⑦	生理食塩液	50mL	点滴静注	5分	↓	↓	↓																		
	上記4コース施行後、下記維持療法へ（病勢増悪まで）																								
①	生理食塩液	50mL	点滴静注	5分	↓																				
②	イミフィンジ 生理食塩液	1500mg/body 100mL	点滴静注	60分	↓																				
③	生理食塩液	50mL	点滴静注	5分	↓																				

＜注意事項/備考＞

✓ スケジュール：4コース施行後、PDや毒性による中止まで、Durva単剤を継続

✓ Durva：院内マニュアルに基づいて、治療開始前、投与中（定期的）、症状発現時の検査が必要

✓ ETP：調製時間に注意（調製後、長時間放置にて結晶析出）
✓ CBDCA：投与回数を重ねると、ショック、アナフィラキシー様症状の発現頻度が高くなる傾向（8コース前後）
✓ CBDCA：腎機能障害に注意。アミノグリコシド系抗菌薬の併用でリスク増大